

## 令和4年度食育指導者養成研修 実施要項

### 1 目 的

食は、人間の活動の源であり、健康の維持のほか意欲や気力といった精神面の充実に大きく関わっている。そのため、子供には、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけさせることが大切である。食生活の乱れや肥満・痩身傾向等、子供の食に関する課題を解決するためには、学校を核として家庭と連携し効果的に子供の食に関する自己管理能力の向上を目指すことが重要となる。

本研修では、学校全体で校長のリーダーシップの下に、日々の教育活動、学校の資源を一体的にマネジメントした各学校や地域の実態等に即した食育推進のための方策を学ぶ。さらに、学校が組織的に子供たちの食育を推進することで、1) 子供たちの食に関する諸課題の改善に専門的知見を活用し、組織的な取組を推進する力、2) 学校、地域の教職員の専門性向上を推進する力、を習得した指導者の養成を図る。

### 2 主 催 独立行政法人教職員支援機構

### 3 共 催 文部科学省

### 4 期間等

受講者は、令和4年12月1日（木）から令和4年12月28日（水）までの期間中、任意の3日間を選択して受講する。

### 5 実施方法

学習管理システムを用いたオンライン研修

### 6 配信元 独立行政法人教職員支援機構 〒305-0802 茨城県つくば市立原3番地

### 7 標準定員 200名 （※ 標準定員は設定しているが、推薦人数に上限は設けない。）

### 8 受講者

#### （1）受講資格

- ① 都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事、学校栄養職員等及び教育センターの研修担当主事等であって、食に関する指導を担当する者
  - ② 小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭、栄養教諭、教諭及び学校栄養職員等であって、学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者としての活動を行う者
  - ③ 当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生
- ※ 「第5次男女共同参画基本計画」（令和2年12月25日閣議決定）を踏まえ、本研修における女性教職員の割合を10%以上とすることを、当機構として目標としている。女性の積極的な推薦について配慮すること。
- （参考：令和3年度 15.7%、令和2年度 12.8%）

#### （2）推薦人数

都道府県・指定都市・中核市等ごとの推薦人数に、制限は設けない。

#### （3）推薦手続

推薦期限は、令和4年10月12日(水)とする。

各都道府県・指定都市教育委員会、都道府県知事部局、国公立大学法人、独立行政法人国立青少年教育振興機構及び教職大学院を置く各大学においては、「研修システム」により推薦を行う。

中核市教育委員会においては、〔様式1〕により都道府県教育委員会に連絡し、都道府県教育委員会が「研修システム」により推薦を行う。

#### (4) 受講者の決定

各都道府県・指定都市教育委員会等からの推薦に基づき、教職員支援機構が決定し通知する。

### 9 研修内容

日程表は「別紙1」のとおりとし、受講者は研修終了後に「課題レポート」を提出する。なお、「課題レポート」の様式、提出方法等については、受講決定時に別途連絡する。

### 10 事前課題

#### (1) 研修成果活用計画書の作成

受講者及び所属長は事前に「研修成果活用計画書」を作成し、提出すること。なお、様式、提出方法等については、受講者決定時に別途連絡する。

#### (2) その他の事前課題

その他の事前課題がある場合は、受講者決定時に別途連絡する。

### 11 研修成果の活用

本研修は、受講者の研修成果を各学校や当該地域で活用することを前提としている。そのため、研修終了後、1年程度の期間を経た後に、研修成果の活用状況（研修企画、研修講師、他校訪問等）についてのアンケート調査を実施する。推薦者は、研修修了者に対し、研修成果を効果的に活用する機会の提供、確保等の配慮をすること。

### 12 その他

(1) すべての講義を受講し、「課題レポート」を提出した受講者には、修了証書を授与する。受講者推薦の際に、必ず受講者の氏名を確認し、正確に記入すること。

(2) 本研修は、学習管理システム「学びばこ」（（株）テクノカルチャー）を用いて研修を配信するものである。なお、「学びばこ」は専用のソフトウェアやアプリケーションをダウンロードする必要がなく、対応するブラウザであればスマートフォン等の端末からも受講可能である。

(3) システム上は時間・場所を問わずに視聴可能であるが、受講者が研修に専念できるよう、推薦者には適切な受講環境及び研修時間の確保等、特段の配慮をお願いする。

(4) 本研修の受講に際し、特別な配慮が必要な者（障害、持病等）を推薦する場合には、事前に当機構に相談すること。

## 令和4年度食育指導者養成研修 日程表

## 目的

食は、人間の活動の源であり、健康の維持のほか意欲や気力といった精神面の充実に大きく関わっている。そのため、子供には、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけさせることが大切である。食生活の乱れや肥満・痩身傾向等、子供の食に関する課題を解決するためには、学校を核として家庭と連携し効果的に子供の食に関する自己管理能力の向上を目指すことが重要となる。

本研修では、学校全体で校長のリーダーシップの下に、日々の教育活動、学校の資源を一体的にマネジメントした各学校や地域の実態等に即した食育推進のための方策を学ぶ。さらに、学校が組織的に子供たちの食育を推進することで、1)子供たちの食に関する諸課題の改善に専門的知見を活用し、組織的な取組を推進する力、2)学校、地域の教職員の専門性向上を推進する力、を習得した指導者の養成を図る。

		9:00										16:00
1日目	開講にあたって	(第1講) 講義	リフレクション	(第2講) 講義	リフレクション	昼休憩	(第3講) 講義	リフレクション	(第4講) 講義		リフレクション	
		学校における食育推進の基本的な考え方  【目的】 学校における食育の果たす役割や食育を推進するための基本的な考え方を理解する		食育を効果的に推進するためのカリキュラム・マネジメントの進め方  【目的】 学習指導要領の趣旨に基づく、食育推進のためのカリキュラム・マネジメントの基本的な考え方を理解する			食に関する指導の全体計画と食育の評価  【目的】 全体計画作成の必要性と作成のポイント、評価の実施方法について理解する		学校給食と食育  【目的】 日本の学校給食と食育について、学校給食の目的と役割や学校における食育等の基本的な考えを理解する			
2日目		(第5講) 講義	リフレクション	(第6講) 講義	リフレクション	昼休憩	(第7講) 講義	リフレクション	(第8講) 講義		リフレクション	
		給食の時間における食に関する指導  【目的】 給食の時間に行われる「給食指導」と「食に関する指導」の在り方について理解する		個別的な相談指導  【目的】 個別的な相談指導の必要性の高まりと、想定される課題についての相談指導の在り方について理解する			各教科等における食に関する指導のポイント【総合的な学習の時間】  【目的】 総合的な学習の時間における食に関する指導のポイントについて理解を深める		各教科等における食に関する指導のポイント【体育、保健体育】  【目的】 体育、保健体育における食に関する指導のポイントについて理解を深める			
3日目		(第9講) 講義	リフレクション	(第10講) 講義	リフレクション	昼休憩	(第11講) 講義	リフレクション	(第12講) 演習		閉講にあたって	
		各教科等における食に関する指導のポイント【家庭、技術・家庭】  【目的】 家庭、技術・家庭における食に関する指導のポイントについて理解を深める		各教科等における食に関する指導のポイント【特別活動】  【目的】 特別活動における食に関する指導のポイントについて理解を深める			各教科等における食に関する指導のポイント【道徳】  【目的】 道徳における食に関する指導のポイントについて理解を深める		研修成果の活用  教職員支援機構 【目的】 研修成果の活用に向けて、自校や各地域における課題を解決するための、具体的な研修計画を立てる。			

※「リフレクション」とは、講義内容について、自身の教育実践を振り返りつつ理解を深める、演習の時間です。

※各講義、講義とリフレクションで75分として構成しています。適宜、休憩を入れながら受講して下さい。